

【短報】沖縄島の海浜におけるコメツキムシ科甲虫3種の記録と生息環境

筆者は沖縄島を訪れた際、海浜性コメツキムシ科甲虫の生息域を調査する機会がありこれまで詳細な生態が知られていなかった3種について観察したので、分布記録と共にここに報告しておく。調査はいくつかの砂浜、河口川岸で行ったが、コメツキムシを確認できたのは3か所の砂浜であった。

1. トカラアカアシコハナコメツキ *Paracardiophorus tokara tokara* Nakane & Kishii, 1955

52exs., 沖縄県国頭郡大宜味村宮城, 17~18. VII. 2014, 筆者採集・保管; 4exs., 沖縄県国頭郡国頭村辺戸宇佐浜, 19. VII. 2014, 筆者採集・保管。

大宜味村宮城では、海岸林を伴い、部分的に礫とサンゴ破片で覆われる砂浜(図1a)で採集された。砂浜を、礫と植生が混在して覆う場所(図1b)に多くの個体が集中して生息しており、礫が少なく植生のない場所(図1c)や、礫が多く植生が少ない場所(図1d)、完全に植生に覆われる場所(図1e)では極端に個体数が減るか全く生息していな

かった。よって、この浜は縦15m×横170m程の規模だが、本種は1m×10mのわずか範囲に局所的に分布していることが明らかになった。

国頭村宇佐浜は50m×550mの大きな砂浜であるが、その大半が礫を含まない乾いた砂の浜で、一部ハマゴウといった海浜植生に覆われている。浜の端には小さな河川が流れており、その周辺にのみわずかに礫が見られる。本種は、その河川に隣接する礫と植生が混在する地点で採集された。これらのことから、本種は適度に礫と植生が混ざり合った砂浜を発生源としており、それ以外の場所で得られる個体は移動分散によるものであると考えられる。

また、本島の本亜種は非常に活発に逃避行動をとり、飛翔する個体も多く観察された。久米島からは後翅が短縮している個体が記録されており(鈴木, 2013)、この形質が個体差か、地域差、もしくは(亜)種間差なのか検証する必要がある。*Paracardiophorus tokara* は、5亜種(tokara: 中之島・宝島, *yakuensis* Ôhira, 1970: 屋久島, *kikai* Kishii, 1977: 喜界島・奄美大島, *heianus* Kishii, 1977: 徳之島, *erabu* Kishii, 1977: 沖永良部島・与論島)に



図1-2. 大宜味村宮城の生息環境。1a: 海岸林を有する砂浜; 1b: 礫と植生が混在して覆う地点; 1c: 礫が少なく植生のない地点; 1d: 礫が多く植生が少ない地点; 1e: 完全に植生に覆われる地点; 2: ブロック堀沿いの海岸林を持たない砂浜。

分けられている。大平 (1986, 1997) は、各亜種の形態的な比較を行ったが、亜種間に顕著な差は見いだせなかったとしているが、同時に、本種の詳しい生態は不明で、得られている個体数が少ないため検討は十分ではないともしている (大平, 1986)。本調査において本種の生息環境が判明したことで、亜種間の分類学的検討に寄与できるものと期待する。

大平 (1986, 1997) では沖縄島産の個体を検しているが、詳細な産地や個体数は記録されておらず、また明確に種名の決定を行っていない。沖縄島に隣接する慶良間諸島の前島からの記録では原名亜種で記録されているため (大平・楠井, 2005)、本稿では原名亜種として記録することとした。

2. イハヒメサビキコリ *Agrypnus (Colaulon) miyamotoi* ihai (Ôhira, 1967)

10exs, 沖縄県国頭郡大宜味村宮城, 17~18. VII. 2014, 筆者採集・保管。

本亜種は海岸林を持たず建造物が隣接する砂浜で採集された (図 2)。砂浜は植生に覆われ、礫が多く混在する。前種が得られた砂浜から数十 m 程しか離れていないが、本亜種は前種が得られた浜からは全く得られなかった。ヒメサビキコリ亜属 *Colaulon* のいくつかの種では、民家や堤防の近くといった人工的な場所に多くの個体が見出される例がよく知られており、本亜種も類似の生態をしていることが示唆される。

Agrypnus (C.) miyamotoi には 10 亜種 (原名亜種含む) が知られており (Kishii, 1999; 大平, 2004)、本亜種は与論島、沖永良部島、伊平屋島、伊江島 (模式産地)、水納島、沖縄島、ナガンヌ島、前島、渡嘉敷島、座間味島、慶留間島、渡名喜島に分布することが知られている (大平, 2004; 大平・楠井, 2005, 2006)。

3. ケシツブスナサビキコリ *Rismethus ryukyensis* Ôhira, 1999

1♂3♀, 沖縄県国頭郡国頭村辺戸宇佐浜, 19. VII. 2014, 伊藤玲央採集・筆者保管。

本個体は礫を含まないハマゴウなどの海浜植生に覆われた乾いた砂浜で採集された。本種はこのような環境で得られることが多いが (大平・楠井 2006; 亀澤, 2014)、海岸線の落葉層からの採集例も知られている (鈴木, 2003)。

本種の分布は長崎、熊本 (天草郡)、口永良部島、屋久島、中之島、宝島、奄美大島、喜界島、徳之島、伊是名島、瀬底島、浮原島、南浮原島、前島、慶留間島、屋嘉比島、多良間島、石垣島 (模式産地)、西表島、波照間島、与那国、緑島 (台湾) から知

られている (Suzuki, 2001; 大平・楠井, 2005; 大平・楠井, 2006; 亀澤, 2014)。

末筆ながら、調査に協力していただいた伊藤玲央氏 (大分県三重市) に厚くお礼申し上げる。

引用文献

- Kishii, T., 1999. A check-list of the family Elateridae from Japan (Coleoptera). *Bulletin of the Heian High School*, 42: 1-144.
- 亀澤 洋, 2014. 沖縄県の瀬底島からケシツブスナサビキコリを記録. 月刊むし, (522): 56.
- Lewis, G., 1894. On the Elateridae of Japan. *Annals and Magazine of Natural History*, (6)13: 26-48.
- 大平仁夫, 1997. 日本産コハナコメツキとその近似種について (甲虫目: コメツキムシ科). 比和科学博物館研究報告, (35): 1-16, 14pls.
- Ôhira, H., 1999. New or little-known Elateridae (Coleoptera) from Japan, XL. *Elytra*, Tokyo, 27(2): 409-416.
- 大平仁夫, 2004. 日本産サビキコリ属の形態について (III). (甲虫目: コメツキムシ科, サビキコリ属, ヒメサビキコリ属). 比和科学博物館研究報告, (43): 67-89, 17pls
- 大平仁夫・楠井善久, 2005. 琉球列島小島嶼のコメツキムシ (2). 月刊むし, (412): 32-33.
- 大平仁夫・楠井善久, 2006. 琉球列島小島嶼のコメツキムシ (3). 月刊むし, (429): 34-39.
- Suzuki, W., 2001. New record of *Rismethus ryukyensis* (Coleoptera, Elateridae) from the Island of Luta, Taiwan. *Elytra*, Tokyo, 29(2): 464.
- 鈴木 互, 2003. 沖縄島伊是名島で採集されたケシツブスナサビキコリの記録. 月刊むし, (394): 30.
- 鈴木 互, 2013. 久米島から採集された興味あるコメツキムシについて. さやばねニューシリーズ, (10): 5-12.

(有本晃一 812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1 九州大学大学院生物資源環境科学府昆虫学教室)

【短報】九州におけるコメツキムシ属 2 種の記録

筆者らは、九州産コメツキムシ属 *Ampedus* の調査を行う中で、九州初記録種と記録の少ない 1 種を検する機会を得たので、ここに報告する。

1. ホソアカコメツキ *Ampedus (Ampedus) chlamydatus* (Lewis, 1894)

1♂ (図 1), 熊本県球磨郡相良村四浦, 1. IV. 2012, 成田・有本採集・有本保管; 2♂, 鹿児島県霧島市 (標高 730 m), 12. I. 2013, 成田・有本採集・有本保管。

検した個体はアカマツ *Pinus densiflora* の倒木樹皮下から得られた越冬中の成虫で、同所的に多数のアカハラクロコメツキ *Ampedus (Ampedus) hypogastricus hypogastricus* (Candèze, 1873), オオアカコメツキ *A. (A.) optabilis optabilis* (Lewis, 1894), ウバタマコメツキ *Cryptalaus berus* (Candèze, 1865) が得られた。しかし、本種と他の 3 種が同じ倒木